

# 平成 29 年度入学者選抜学力検査問題

## 国 語

### 注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。  
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。  
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのA、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の( )の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 速やかに移動する。
- (2) 彼は愉快な人だ。
- (3) 田舎に住む。
- (4) 目的を遂げる。
- (5) 即興で演奏する。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 水をアびる。
- (2) 機会をモウける。
- (3) 知識をキュウシユウする。
- (4) 実力をハツキする。
- (5) カンケツな文章。

3 「兄は連日の試合で疲れているようだ。」の——線の部分と文法的に同じ意味・用法のものはどれか。

- ア この夜景はちりばめた星のようだ。
- イ おじは昨日から外出中のようだ。
- ウ 冬の山はまるで眠っているようだ。
- エ 彼女の笑顔はひまわりのようだ。

4 次のうち、熟語の構成が同じものの組み合わせはどれか。

- ア 歓迎 — 登山
- イ 縮小 — 加減
- ウ 不在 — 日没
- エ 価値 — 身体

5 次の文章は、吹奏楽部の部長の挨拶原稿である。——線の部分の敬語の使い方が正しいものの組み合わせはどれか。

皆様、本日は演奏会にご来場くださりまして、ありがとうございます。①  
 ② 部員を代表してひとことご挨拶申し上げます。  
 私たちは、この日のために練習を重ねてきました。その成果をたくさんの方々に披露できることを大変うれしく③お思いになつて④います。一生懸命演奏しますので、どうぞ私たちの演奏をお聞きしてください。

- ア ①と②
- イ ①と②と④
- ウ ①と③と④
- エ ②と③

6 次の行書で書かれた部首を含む漢字はどれか。



- ア 稲
- イ 旅
- ウ 福
- エ 極

7 次の二首の和歌の□には同じ語が入る。適切なものはどれか。

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ□と知りせば覚めざらましを  
 うたたねに恋しき人を見てしより□てふ物は頼みそめてき

〔古今和歌集〕小野小町

- ア 夢
- イ 君
- ウ 熱
- エ 愛

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

ある時、牛を引きたる童の、唄などうたひ通りければ、長年はあと追ひ行きて、童を呼びかけいひけるは、我をその牛に乗せて、川端まで行けかしといふに、童うけがひ答ふるやうは、御身を乗せて行くべきが、賃には何をかたまはるぞといへば、長年はわが家をかへり見て、門に生ひたる松を指さして、いづれの樹なりとも、その方が望みに任すべし。とくとくやれといふに、童よろこびて、長年を川端まで乗せ行きたり。その後、三年がほどを経て、ひとりの男、童を伴ひ、長年が家に来たりて、長年が父にむかひ、三年前の約束を物がたりければ、長年、幼心の戯れなれども、かの童はこれを誠と心得、牛に乗せたる賃をはたるに、いかにいひ説きても肯んぜず。いかがはせんといへば、長年が父、これを聞くより、さもありぬべし。約束をせしにたがひなくば、切らせて遣はすべしとて、童に望ませ、門前なる大樹の松を、柚に命じて切らせ、牛飼にとらせけり。里人はこれをいひつたへ、名和が約束の松と呼びて、今にはなし伝へたり。

(「雲萍雑志」から)

(注1) 長年||名和又太郎長年。のちに南北朝時代の武将となる人物。

(注2) はたる||とりたてる。

(注3) 肯んぜず||納得しない。

(注4) 柚||山林の木を切り出すことを仕事とする人。

1 いひつたへ、は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 いひける 来たりて について、それぞれの主語にあたる人物の組み合わせとして適切なものはどれか。

ア 童 ① — 長年 ②      イ 童 ① — ひとりの男 ②  
ウ 長年 ① — 長年 ②      エ 長年 ① — ひとりの男 ②

3 賃には何をかたまはるぞ とあるが、これに対して長年はどのようなことを申し出たか。二十五字以内の現代語で書きなさい。

4 約束をせしにたがひなくば の意味として、最も適切なものはどれか。

ア 約束をしたのに忘れてしまったなら  
イ 約束の期限が差し迫っているなら  
ウ 約束をしたことが確かであるなら  
エ 約束の内容にお互い不満がないなら

5 長年の父の人物像として、最も適切なものはどれか。

ア 我が子を喜ばせるためには全財産をもなげうつ子ども思いの人物。  
イ 我が子が過去にとつた行動に対しても責任を果たす厳格な人物。  
ウ 我が子の起こした問題を当事者間で解決させる中立で公平な人物。  
エ 我が子が過去にした失敗を帳消しにしようとする賢い人物。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑧は形式段落の番号である。

① 西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はある明確な秩序を持ったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右相称性であったり、部分と全体との比例関係であったり、A 基本的な幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、いずれにしても客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現した<sup>(1)</sup>ものとなる。

② 典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学である。人間の頭部と身長が一对八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン(規準)」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも荘重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に由来するところが大きい。

③ もっとも、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまっており残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかししばしば不完全なそれらの模刻作品を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにはほかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表すものとなるのである。

④ だがこのようなという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているように思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

⑤ 例えば、「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が妙音だと主張しているのではない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を孕んだ深い静寂の世界に芭蕉はそれまでになく新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

⑥ 日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙、やうやうしろくなくなりゆく山ぎはすこしあかりて……」という文章で知られる『枕草子』冒頭の段であろう。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えた、いわば模範的な「状況の美」の世界である。B 春ならば夜明け、夏は夜、そして秋は夕暮というわけだが、その秋について、清少納言は次のように述べている。

秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ三つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるがいとちひさく見ゆるは、いとをかし……。

⑦ これはまさしく「夕焼けの空に小鳥たちがばあつと飛び立っているところ」というあの現代人の美意識にそのままつながる感覚と言つてよいであろう。日本人の感性は、千年の時を隔ててもなお変わらずに生き続けている。

⑧ 「実体の美は、そのもの自体が美を表しているのだから、状況

がどう変わろうと、いつでも、どこでも「美」であり得る。《ミロのヴィーナス》は、紀元前一世紀にギリシヤの植民地であった地中海のある島で造られたが、二一世紀の今日、パリのルーヴル美術館に並べられていてもその美しさには変わりはない。仮に砂漠のなかにぽつんと置かれても、同じように「美」を主張するであろう。だが「状況の美」は、状況が変われば当然消えてしまう。春の曙や秋の夕暮れの美しさは、長くは続かない。状況の美に敏感に反応する日本人は、それゆえにまた、美とは万古不易のものではなく、<sup>②</sup>うつろいやすいもの、はかないものという感覚を育てて来た。うつろいやすいものであるがゆえに、いつそう貴重で、いつそう愛すべきものという感覚である。日本人が、春の花見、秋の月見などの季節ごとの美の鑑賞を、年中行事として特に好んで今でも繰り返しているのも、そのためであろう。

(高階秀爾「日本人にとって美しさとは何か」から)

(注) あの前現代人の美意識は本文の前で、現代人の美意識について述べられている部分がある。

1

A B

切なものとはどなか。に当てはまる語の組み合わせとして適

- ア A または B それとも
- イ A そのうえ B むしろ
- ウ A しかし B だから
- エ A あるいは B すなわち

2

(1) それとは何を指すか。二十字以内で書きなさい。

3  に当てはまる語句はどれか。

- ア ギリシヤ美術を至上とする
- イ 実体物として美を捉える
- ウ 本物よりもコピーが美しい
- エ 美は曖昧で感覚的なもの

4 段落の関係を説明したものとして、最も適切なものはどれか。

- ア ③段落は、②段落で挙げた例の補足説明をしている。
- イ ④段落は、③段落までに述べた事実を否定している。
- ウ ⑤段落は、④段落で述べた説の問題点を指摘している。
- エ ⑥段落は、⑤段落の内容とは対照的な例を示している。

5 <sup>②</sup>うつろいやすいもの、はかないものという感覚とあるが、日本人が美に対してこのような感覚をもつのはなぜか。その理由について説明した次の文章の  a  a  b  b に入る語句を、本文中から  a  a  b  b は七字で抜き出しなさい。

日本人は、  a  a に敏感に反応する。そして、そのような日本人の感性により見出された美は  b  b のみだから。

6 本文の内容に合うものはどれか。

- ア 古代ギリシヤで成立した「カノン」は、地域の状況に依り中身を変えながら世界中に広がった。
- イ 芭蕉の詠んだ「古池や」という句は、小さな蛙そのものの美しさを新たに見出したものである。
- ウ 『枕草子』冒頭の段に見られる美意識は、現代の日本人にも変わることなく受け継がれている。
- エ 砂漠に置かれても美を失わない《ミロのヴィーナス》は、西欧の彫刻作品の中でも異質である。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

安土桃山時代、代々続く絵師の家柄である狩野家において、永徳の描いた絵は父の絵よりも高い評価を受けていた。あるとき、父と共同で襖絵を制作している際に、永徳は絵の中の人物について父に尋ねた。

「父上。」

「……………」

父はふり向かず、目のあたりを指でもみながらこたえた。

〔注〕その唐人は、なにをしているのでしょうか。〕

「湖水を眺めておる。」

これは、たずね方が悪かったと反省した。すぐにことばを重ねた。

「なにを思つて湖水を眺めているのでしょうか。」

「……………」

顔を上げた父が、永徳を見すえた。目のまわりがたるんで、下に、黒ずんだ隈ができていた。その醜さに、言いようのない嫌悪を感じた。

「なぜ、そんなことをたずねる。」

「されば、人間のたたずまい、面持ちは、こちらの在り方によつて左右されましょう。青雲の志をいだいておる者ならば、背筋を伸ばして、目を   て遠くを見ておきましょうし、汚辱にまみれた憂き世を厭うて逃れてきた隠遁者ならば、すこし背を丸めて、虚ろな目をしておきましょう。その唐人は、どんなところで、そこに坐し、湖水を見ているのでございましょうか。」

黙つて聞いていた父が、突然、声をあげて笑いだした。侮蔑を含

んだ笑いだった。

「おまえは、そんなことに思い悩んで、筆が止まっておつたのか。」  
「えつ。」

「絵を描くのに、いちいち、絵のなかの人物のころまで考えておつたのか。」

父の問い返しこそ、永徳には意外だった。

〔1〕人を描くには、ころを描かねばならぬと存じますが、ちがいますでしょうか。」

また声をあげて父が笑つた。

「唐人の絵を描いてはおるが、唐人のころなど、分かるはずがないではないか。おまえは、分からぬことを無理に描こうというのか。」

言われて、永徳はおおいに呆れた。

——そんな思いで、人物を描いていたのか。だから、つまらないしか描けないのだと、侮蔑の気持ちがふくらんだ。

〔2〕父がじつと永徳を見すえていた。目のまわりばかりでなく、あごから首にかけての肉もたるんでいる。

「ころがなければ、たとえ絵でも、人ではありませんまい。」  
〔注3〕反駁した永徳に、父がさらに大きな声をあげて笑つた。

「ころは、観ている者にあるではないか。おまえは、観ている者のころが遊ぶ場所をなくしてしまおうというのか。」

父のことばが、伏兵のごとく永徳の胸をついた。意識していなかった絵画の本質の一面を、眼前にひろげて見せられた気分だった。

「観る者のころが遊ぶ場所……………」

「そうだ。押しつけがましい絵はうるさくてかなわぬ。観る者がな



5

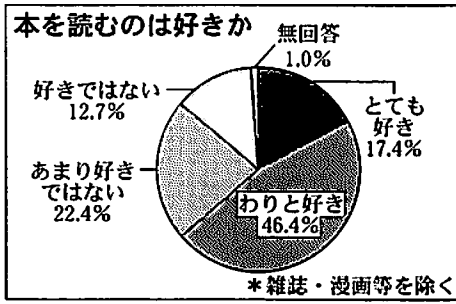
グラフA・Bは、文部科学省が行った「高校生の読書に関する意識等調査」の結果の一部である。これを見て、読書についてのあなたの考えを書きなさい。

なお、次の《注意》に従って書くこと。

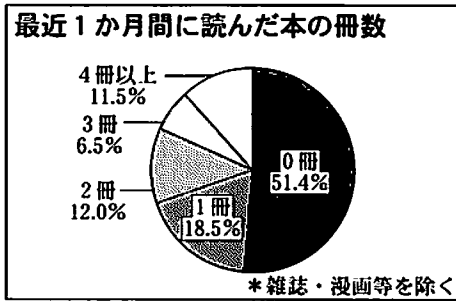
《注意》

- ・二段落構成とすること。
- ・第一段落には、二つのグラフから読み取ったことについて書くこと。
- ・第二段落には、第一段落に書いたことを踏まえて、読書についてのあなたの考えを書くこと。
- ・国語解答用紙②に二百四十字以上三百字以内で書くこと。

A



B



「高校生の読書に関する意識等調査」  
(平成26年度文部科学省委託調査)により作成